

「三陸創造プロジェクト」の平成25年度以降の取組について(たたき台)

資料 6

「三陸創造プロジェクト」

長期的展望に立って「世界に誇る新しい三陸地域の創造」を目指していくもの。

平成25年度に向けて

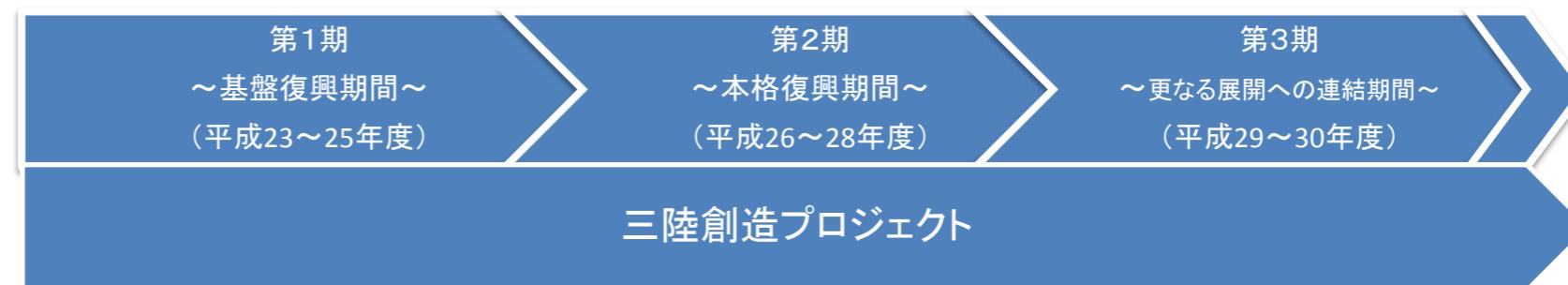
(復興計画の第1期(基盤復興期間)の最終年)

平成25年度には第2期(本格復興期間)のスタートの平成26年度に向けてプロジェクト事業を具体化し、それを復興実施計画に位置づけていくことが必要。

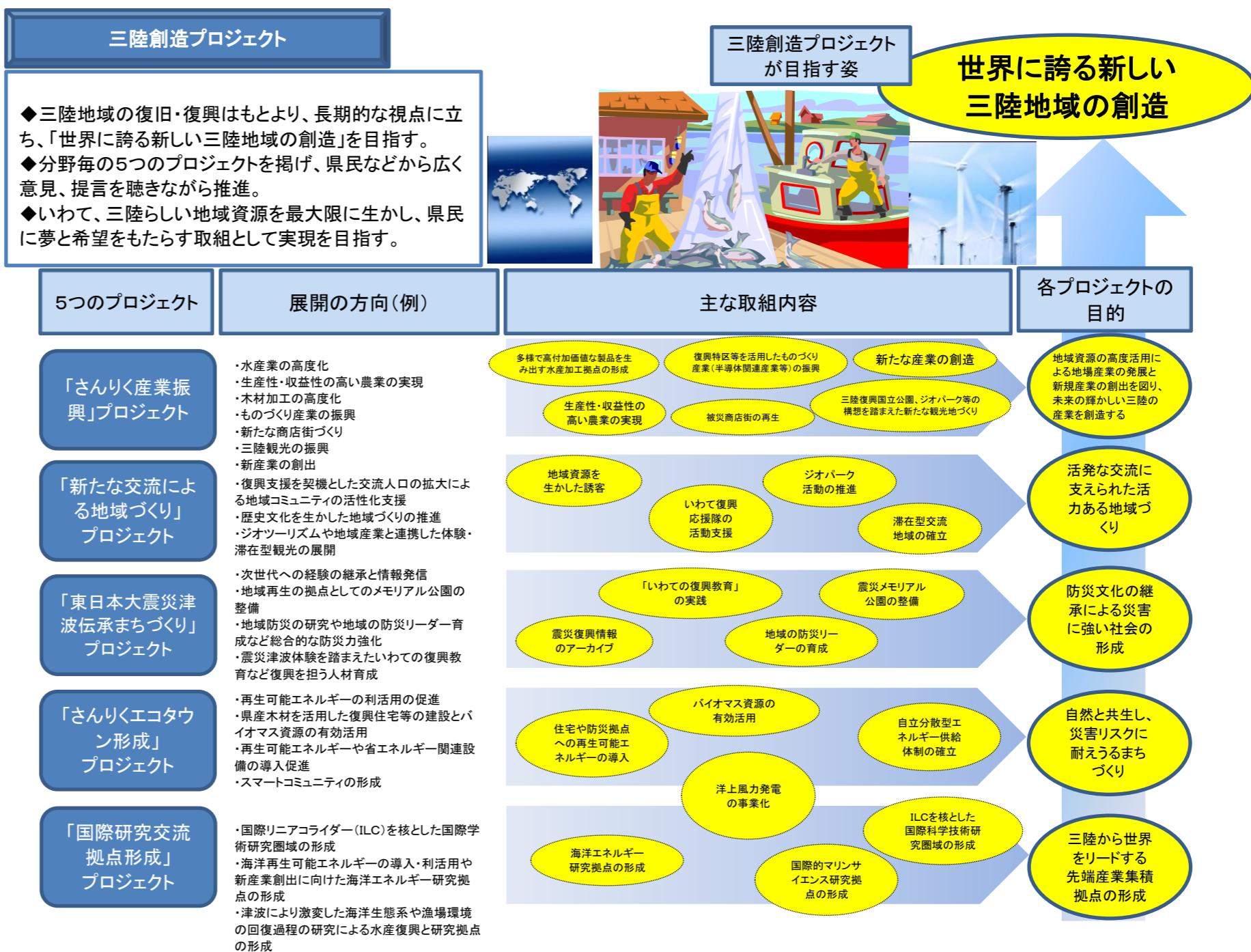
本資料の位置づけ

本資料は現段階での方向性およびスケジュールのイメージ。平成25年度にはこれをたたき台とし、広く県民の意見・提言を聴きながらその内容をブラッシュアップする。

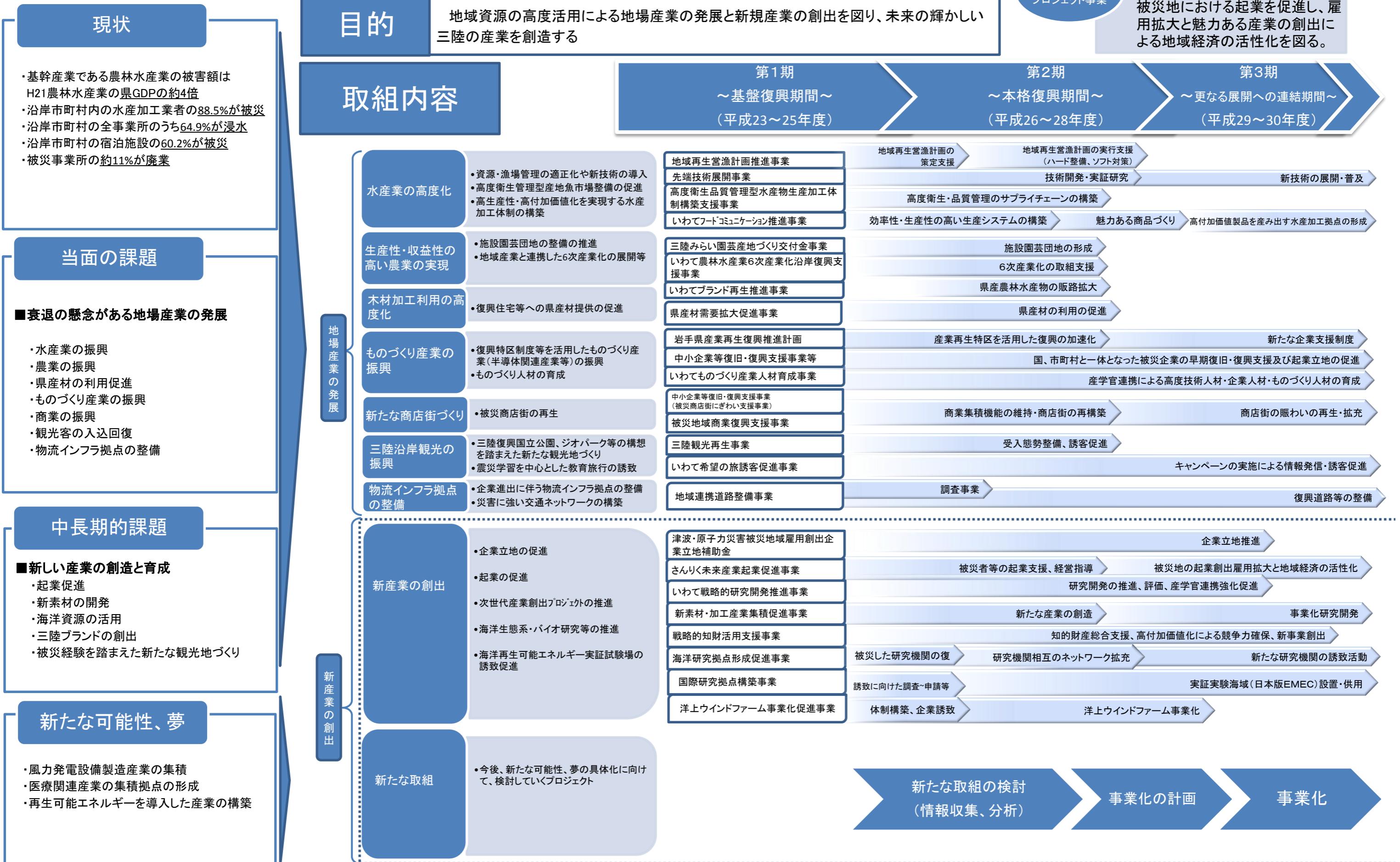
【三陸創造プロジェクトと復興計画の全体スケジュールイメージ】



【三陸創造プロジェクトの全体コンセプト】



「さんりく産業振興」プロジェクト



「新たな交流による地域づくり」プロジェクト

現状

- 少子高齢化の進展により、地域コミュニティ活動の担い手が不足
- 個人の価値観の変化により地域の連帯意識が希薄化
- 復興支援活動を通じて他の地域との交流が拡大
- 大震災・大津波という地球活動の痕跡を活かしたジオパーク構想への関心
- 平泉の文化遺産の世界遺産登録を契機に岩手の歴史・風土が改めて見直されている

当面の課題

- 地域コミュニティ再生に向けた復興の担い手不足が顕著化
- 人口流出抑制のための定住・交流人口の確保
- 「三陸ジオパーク」への地域住民の理解促進
- 浄土思想や自立と共生の理念など平泉の有する価値の普及

中長期的課題

- 将来の地域コミュニティ活動を担う若手人材の流出
- 地域住民が主体となった、三陸ジオパークの魅力発信への取組
- 交流人口の確保に向けた継続的な取組

新たな可能性、夢

- 沿岸部に交流人口が集まる仕掛けづくり
- 芸術家（例えば音楽家のタマゴ）が長期滞在し、演奏会・発表会を開催
- 国際的なスポーツ大会を誘致（例）釜石市でラグビーワールドカップを開催
- 三陸の「海」を活用したレジャーランドの拠点づくり（例）ヨットハーバー～釣り～食～豪華客船の寄港地として整備
- 三陸縦貫道と新幹線を利用した観光客誘致（「タテ」と「ヨコ」のつながりを創出）
- 若者が集うまちづくり（例）高等教育機関、国際機関を誘致

目的

復興活動を契機とした交流人口の拡大や、豊かで多彩な自然環境、地形・地質、岩手の風土に根ざした歴史の中で育まれた文化遺産や伝統芸能などを活かした地域ツーリズム等の展開を通じて、新たな岩手ファンや観光客などとの交流拡大により、三陸地域における一層の観光振興、定住・交流の促進を図る。

代表的
プロジェクト事業

スマイル130プロジェクト

「130万人誰もが笑顔に」をスローガンに県民・企業・NPO、行政が共同して、県民が笑顔になる復興を推進する

取組内容

第1期
～基盤復興期間～
(平成23～25年度)

第2期
～本格復興期間～
(平成26～28年度)

第3期
～更なる展開への連結期間～
(平成29～30年度)

地域 コミュニティ 活性化

- 交流人口の拡大による地域コミュニティの活性化

いわての定住・
交流促進事業

スマイル130
プロジェクト

交流事業、
いわて復興応援隊受け入れ

地域活動、地域防災
教育活動の支援

定住交流に関する
情報発信

岩手ファンの拡大・定住交流人口の
増加に向けた環境整備

多重防御における担い手としての
コミュニティの活性化、自立支援

平泉の 理念普及

- 世界遺産平泉の
理念普及

世界遺産平泉
理念普及事業

多様な媒体を用いた
理念の普及活動

体験・滞在型 観光

- ジオパークの取組推進
- 地域産業と連携した
体験・滞在型観光の展開

三陸ジオパーク
推進事業

三陸観光
再生事業

日本ジオパーク認定を
目指した周辺環境の整備

教育旅行のコンテンツ・
受入体制強化

世界ジオパーク認定を
目指した周辺環境の整備

教育旅行誘致活動

新たな取組

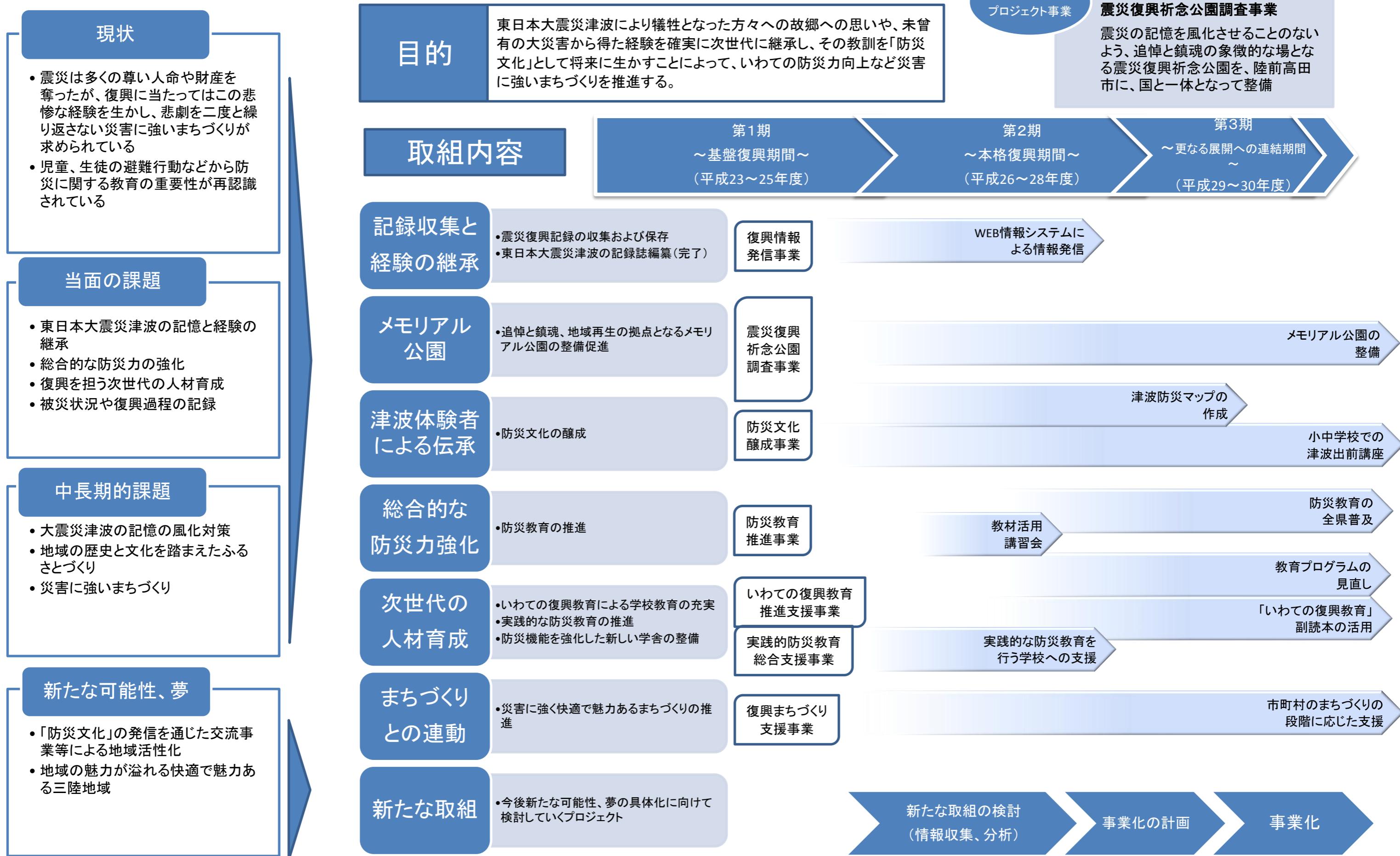
- 今後新たな可能性、夢の実現に向けて検討していくプロジェクト

新たな取組の検討
(情報収集、分析)

事業化の計画

事業化

「東日本大震災津波伝承まちづくり」プロジェクト



「さんりくエコタウン形成」プロジェクト

代表的
プロジェクト事業

洋上ウインドファーム事業化促進事業
洋野町沖合における着床式洋上風力発電の事業化により、地域資源を活かした再生可能エネルギーの導入を拡大

現状

- 東日本大震災津波では被災地を中心に県内に大規模かつ長期間にわたる停電とガソリン等燃料不足がもたらされ、地域資源を活用したエネルギー確保の必要性を再認識
- 本県に豊富に賦存する木質バイオマス、風力・波力等の再生可能エネルギーへの関心が高まっている

当面の課題

- 災害時におけるエネルギー供給体制の構築
- 木質燃料の安定的な確保など

中長期的課題

- 自立・分散型エネルギー供給体制の全県展開など

新たな可能性、夢

- 環境関連産業の育成・誘致を通じた地域雇用の拡大
- バイオマス資源の利用拡大を通じた林業の振興など

目的

三陸の地域資源を活用した再生可能エネルギーや省エネルギー技術の導入を促進し、災害にも対応できる自立・分散型のエネルギー供給体制を構築することにより、環境と共生したエコタウンの実現に向けた取組を推進する。

取組内容

再生可能エネルギー

- 住宅や防災拠点への導入促進
- 大規模発電施設の立地促進
- 洋上風力発電等の事業化推進
- 市町村等と連携した戦略的な再生可能エネルギーの推進

第1期
～基盤復興期間～
(平成23～25年度)

- 防災拠点等再生可能エネルギー導入事業
- 再生可能エネルギー導入促進事業
- 再生可能エネルギー利用発電設備導入促進資金貸付金
- 洋上ウインドファーム事業化促進事業
- 戦略的再生可能エネルギー推進事業

第2期
～本格復興期間～
(平成26～28年度)

- 防災拠点などへの再生可能エネルギー導入支援
- メガソーラー立地支援
- 被災家屋等への太陽光発電導入支援

第3期
～更なる展開への連結期間～
(平成29～30年度)

- 風力発電・地熱発電等の立地支援
- 太陽光・風力発電導入に対する融資制度
- 洋上ウインドファーム事業化

バイオマス資源の有効活用

- 木質バイオマスの活用
- 復興住宅等への県産材利用の促進

- 木質バイオマス
- 県産材需要拡大

- 木質バイオマス利用拡大に向けた技術指導
- 「いわて森の棟梁」による復興住宅の建築
- 県産材の流通円滑化支援

研究開発

- 環境・エネルギーの研究開発促進

- 国際研究拠点
- 誘致に向けた調査・申請等
- 実証実験海域(日本版EMEC)設置・供用

- 海洋エネルギー研究拠点形成(日本版EMEC)

スマートコミュニティ形成

- 自立・分散型エネルギー供給体制の構築

- 自立・分散型エネルギー供給システム
- 再生可能エネルギー導入促進事業

- 地域内エネルギー供給
- 災害時における地域内エネルギー供給体制の実現化

- 地域内エネルギー供給体制構築の全県展開

新たな取組

- 今後新たな可能性、夢の具体化に向けて、検討していくプロジェクト

- 新たな取組の検討(情報収集、分析)

- 事業化の計画
- 事業化

「国際研究交流拠点」プロジェクト

